

31H 乙地 実優 32H 酒井 友愛 33H 北川 玖樹
 34H 濱 千里 35H 横江 伽威 36H 政氏 貴仁

■課題

コロナウイルスの影響で減った能登地域の鉄道の売上げを増やす

■解決策

消毒・殺菌の実施・奨励などの対策を行っていることの周知

■現状（課題の背景）

○感染拡大前後の交通機関の利用の変遷（n=8078）
 ※拡大前：2020年4月中旬以前、拡大後：それ以降

	拡大前 (%)	拡大後 (%)	変動量 (%)
マイカー	63.8	67.3	+3.5
電車	12.3	5.5	-6.8
バス	3.2	1.4	-1.8
自転車	6.9	7.5	+0.6
徒歩	11.5	15.8	+4.3
その他	2.5	2.6	+0.1

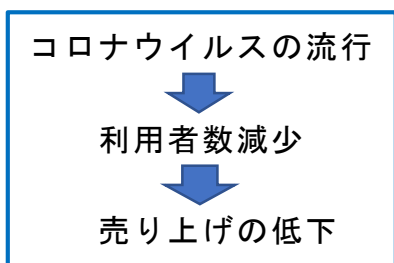
<https://www.intage.co.jp/gallery/covid19-mobility/>

公共交通機関のように人と関わる交通手段の利用が減っている



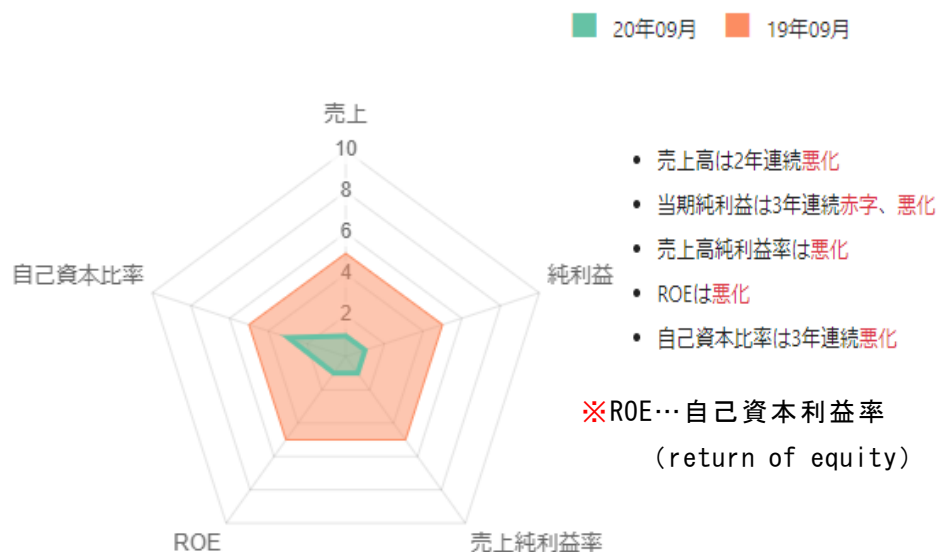
公共交通機関の利用は感染リスクが高いと考え、利用する人が減っている。

○鉄道会社への影響（のと鉄道）
 ・2020年は前年に比べ大きな赤字



上記のようなことが起きていると考えられる。

・のと鉄道の売上げ等の変化（前年度との比較）



このように、鉄道会社では大きく利益の減少がみられるが、電車内では駅に着くごとに人や空気の入替わりがあるからか、クラスターの発生はいまだ報告されていない。また、感染防止のために様々な対策が行われている。

○現在行われている対策

- 特急車両内に空気清浄機を設置する
- 車内の座席や窓ガラス、券売機等の抗ウイルス・抗菌加工
- 密を避けることを目的とした混雑状況のお知らせ
- 夜間の外出自粛のための終電時刻の繰り上げ
- 窓を閉めた状態でも強制換気ができるような工夫についての研究機関による調査研究
- 感染症対策ガイドラインの作成
- 利用者に対する車内アナウンスなどでの呼びかけ
- 利用者間の間隔の確保
- ネット予約の呼びかけ

■具体的対策

- ・列車の混雑状況の発信
- ・車内のアルコール消毒の設置
- ・時差通勤ご協力の呼びかけ
- ・改札やみどりの窓口にビニールカーテンの設置
- ・窓口の足元待機位置の設置
- ・ポスターやSNSでの呼びかけ

■予想される効果

- ・車両内にこもるウイルスを外に出し、ウイルスの付着を防ぐ
- ・通勤時の混雑を防ぎ、人々の密接を防ぐ



感染リスクが下がる

これを周知して利用者を増やすことができると考えられる